第9回 コールドチェーン物流サービス規格（JSA-S1004）に関する普及検討委員会
議事要旨

1. 日時

2023 年 11 月 8 日（水） 10:00-12:00

2. 会場

三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング内会議室（オンライン併用）

3. 議事要旨

（1）重点 5 カ国におけるアクションプランの取組状況について

事務局より、重点5カ国におけるアクションプランの取組状況について説明を行った。

委員からは、主に以下のような発言があった。

○ 重点 5 カ国に入っていないブルネイからの意見表明があったが、ブルネイに対する支援を想定しているか。面積の小さな国であり、他の国と物流事情が違うのかどうか、農産物の供給は輸入に頼っていることも踏まえ、物流はインターナショナルの視点を踏まえて検討することが求められるのではないか。

○ JSA-S1004 は国内物流を考えている。ブルネイは三重県程度の大きさであるが、小売りとしてはブルネイにもあてはまる。

○ JSA-S1004 の認証を物流事業者がなぜ取得するかといえば、品質の高さの PR に加え、荷主や消費者に向けてどれだけアピールできるか、要望があるかがポイントになっている。荷主や消費者に対してこの規格が良いものであることを効率的に PR することが重要である。荷主・消費者への訴求という観点も盛り込んでもらいたい。

（2）フィリピン・ベトナムにおける実証実験について

事務局より、フィリピン・ベトナムにおける実証実験について説明を行った。

委員からは、主に以下のような発言があった。

○ ベトナムの実証実験では、小容量輸送において、日本から実証実験に用いるボックスを持ち込むという理解で合っているか。かつて同様の取り組みを行った際にコストがネックになったことがある。いかに実効性を付加するか、ギャップを埋めていくかが大事だろう。

○ JSA-S1004 は BtoB 向け、ISO23412 が BtoC 向けであるが、今回の実証実験案では両者の境界が難しくなる。また、日本でのあるべき姿であるため、現地でのカスタム化を視野に入れないと、コストが壁になる可能性がある。対応を協議していくべきであろう。

○ フィリピンにおいて加工野菜と果物が大きく伸びているようだが、なぜフィリピンでこのよ

うな状況が起きているのか。また、輸送方法の優秀さを示すのはいいが、商業輸送で輸送需要がどれだけあるのかは気になる。一方、ベトナムでは、現状どのような問題があるのか、和牛の輸送などにおける問題点は何かも示せるとよい。

○ 本事業の目的を果たす上で難所となるのが、規格を遵守した輸送の意義をいかに現地荷主に理解してもらうかという点である。日本にとってのメリットとは何かという観点も忘れずに検討を進めていただきたい。

○ フィリピンは荷主やローカル企業などに規格の意義をどう理解してもらうが大事になる。冷たければよい、凍っていればよいという考えが現地にはあり、現状では、高品質のサービスよりも、これまでのローカルでもできるサービスを求めるニーズの方が圧倒的に多い。現地での BtoB に絞って、事例をつくっていくことが近道と考える。

○ フィリピンにおいて、食品ロスを減らすのはよいことだが、段ボールに詰めることが現地で普及するかは、コールドチェーン輸送の普及とは別の話である。常温もしくは冷蔵輸送でのロスの違いはどの程度か、鉄コンでの運び方を工夫すればどの程度差が出るかを把握することも大事だろう。ハイエンドの需要は少ないので現地スーパーに並んでいる商品を新鮮なものにすることを目指すほうがよいだろう。

○ ベトナムについては、市内の小口配送はバイク便が主流である。それに対してトラックによる幹線輸送・市内配送ではコストが変わるだろう。また、ホーチミンとハノイでは同じ事業者が出ていることは少ないため、幹線輸送を具現化するのはハードルが高い。ベトナムにおける冷凍・冷蔵倉庫の品質は外資が入ってそれなりに高いものの、輸送については地場が中心で安い。ユーザーも安かろう悪かろうを受け入れている。ユーザーの意識をいかに上げて、輸送品質を上げることに理解をもってもらうかが大事である。

○ 民間の視点では、商売として成り立つのかがベトナム・フィリピンともに疑念がある。現地のユーザー・荷主の実態調査についても進めてもらい、地場業者との差別化、どこを日系事業者が攻めていくかを見つけられるよう調査してもらいたい。

○ 実証実験は、実験そのものよりも、現地国民に普及させることに主眼をおくべきだ。その際、前工程が大事だろう。フィリピンにおいてフードロスをしない方法は彼らも知っている。実態は価格の観点で輸送方法が選ばれている。消費者の取得価格を考えていかなければならない。日本のやり方を採用したら庶民の暮らしに役立ったと現地に得られるようにやってもらいたい。JSA-S1004 は 2020 年 8 月に作ってから現在では情勢が激変した。環境に関する内容を取り入れることが求められる。

○ 実証実験の目的について、事業がフィージブルであるか、JSA-S1004 のオペレーションの品質の差がどれだけあるかを調べるという理解でいる。段ボール箱で運ぶほうが高品質であるということからは、コールドチェーンによる効果をどう抽出するかが気になった。ベトナムは、BtoC は ISO23412 があり、小口輸送と言った場合に規格という観点でどう整理するのか気になった。

○ サービス規格であるので、いかに質的に・ビジュアルに・数量的に違うのか、コストに反映

するのかに落とし込めるかを期待したい。ビジュアルに訴える、あるいは数字で捕まえる、廃棄率を把握するなど、訴求することが重要である。チェーンという視点では、9 割はよくても 1 割だめであれば途切れてしまうので、その観点も忘れてはいけない。フィリピンの BtoC 国内規格に関しては日本の規格よりも先にでているが、普及が日本よりも進んでいるかはそうではない。今回の実証実験では、結果をしっかり見える化し、残す、反省・分析するということをしてもらいたい。

○ ベトナムについて、ハノイ～ホーチミンの需要はこれから調べるということでよいが、ドライカーゴも含めてどのような需要があるのか、陸海空とあるなかで、どのくらいのニーズが陸にあるのか気になった。

以上